

第5回 横浜市都市計画マスタープラン改定検討委員会会議録	
日 時	平成23年4月19日（火）13時00分～15時00分
開催場所	マツ・ムラホール
出席者 (敬称略)	委員 高見沢実（委員長）、小泉秀樹、中村文彦、真野博司、三輪律江、村木美貴、 吉田洋子 事務局 都市整備局 櫻井 局長、青木 企画部長、齋藤 都市づくり部長、内海 企画課長、 石津 地域まちづくり課担当課長、吉田 企画課課長補佐、大蔭 地域まちづくり 課課長補佐
欠席者 (敬称略)	委員 金子忠一
開催形態	公開（傍聴者3人）
議 題	1 開会 2 議事 (1) 意見募集の実施結果について (2) 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言（案）について (3) その他
議 事	1 開会 (事務局) 開会及び資料確認 2. 議事 (1) 意見募集の実施結果について (委員長) 地震で延びていたが、このような地震が起き、内容を見直さなくて 良いのかという声が周りからも聞こえてきた。委員には、一通り見 直していただいて、その観点も踏まえ最終的にまとめようというこ とにさせていただく。 (事務局) 資料1 資料2 説明 (委員長) ヨコハマeアンケートのQ4等、年齢別クロス集計等がとれるか？ (事務局) 技術的にはとれるが、今手元に資料はない。 (委員長) 機会があれば見てみたい。Q4ではウを選んだ回答者が多かったの で、気になった。どのような人たちがどういう風に思っているかを 見てみたい。 (2) 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言（案）について (事務局) 資料3 資料4 説明 (委員長) 市民の皆様には、多数のご意見をいただいて感謝の意を表したい。 いろんな観点があるので、自由にご指摘をいただきたい。未解決の

	<p>問題が残ったら、委員長預かり等にすることもありますが、できるだけこの場で解決したい。</p>
(小泉委員)	<p>防災の観点で、横浜が一番気にしなければならないのは、液状化のこと。そのことを記述していただきたい。</p> <p>安全だと言われていた避難所、公共施設等が津波で被害に遭っている。現在の避難施設、災害時の拠点となる小学校などの公共施設について、耐震性を含めた多方面からの安全性の検証が必要ということを加えておくべき。学校とか市役所が被害を受けるのは避けるべき。耐震性も建築基準法の水準以上のものにしなければならないのではないか。</p>
(委員長)	<p>意見募集は震災前に行われたが、防災に対する先見的な意見もあった。本来であれば、もっと意見を言いたい市民もいると思うが、今回は委員が責任をもって全体をまとめていることを公表の際には市民には知らせてほしい。</p> <p>トータルでどのように変えたかを説明してほしい。</p>
<(事務局)>	<p>主な変更点の説明></p>
(小泉委員)	<p>公共施設の配置を含めた安全性の再検討と液状化についての記述を加えてほしいということ。</p> <p>今回震災の検証結果を踏まえた防災上の対策を市としてきちんと行うということを書いておいてほしい。</p>
(吉田委員)	<p>横浜の中でも避難場所が危険だというところがある。そういう観点で公共施設を見直すべき。その点の見直しが必要。防災の観点からの安全性について加筆したのは良い。安全性と水と緑を重ねあわせたやりかたを検討してほしい。崖の問題等、安全対策をすると緑が無くなるということも考えなければいけない。</p> <p>P 3 1に「・・・臨海部と既成市街地との防災遮断機能の向上を図る必要がある。」とあるが、P 3 7では、工業地側だけに何かをつくるように書いてある。環境帯の考え方がP 3 7ではトーンダウンしているのではないか。</p> <p>P 3 7には、「崖地や造成地等の防災対策を検討する。」とあるが、P 3 1にはそのところの記述がない。書いておいてほしい。内陸部で起こった地震の際の盛り土の危険性もある。</p> <p>P 4 4の図が不満。流域の考え方が弱い。流域が表現できないようであれば、2枚の図にするなどの工夫があればと思う。</p>
(委員長)	<p>例えば川の凡例をギザギザにして川らしく見えないか。</p>
(村木委員)	<p>P 3 7の「崖地や造成地等の防災対策を検討する。」は良いが、新規に開発を許可する上では、地盤のことを考慮した規制について、市域レベルであれば記載しておくことも良いのではないか。</p>
(委員長)	<p>できるだけ反映したい。</p>
(吉田委員)	<p>海沿いや崖下などでの居住については、規制を強化していく必要も</p>

	あるのではないか。
(小泉委員)	少なくとも、そのような検討をするということを入れておく必要がある。
(委員長)	行政ではどのように考えているか。
(事務局)	崖地については、県が危険区域を指定している。
(吉田委員)	横浜は、崖下ぎりぎりまで住める。もっと厳しい規制をしている自治体もある。規制を見直していくという視点を入れられないか。
(小泉委員)	地震の想定も今までの基準ではなく、世界中で頻発しているマグニチュード9程度を基準に考えても良いのではないか。今までは安全とされていた基準も、これからは危ないとする判断もあり得る。
(委員長)	今の時点で特定できないことを踏まえて、将来の防災対策についての何らかの記述をしておくということにしたい。
(真野委員)	P 3 4 に「観光を新たな成長分野として位置づけ、・・・」の中に「産業観光」を加えておいたほうがよい。例えば、臨海工業地帯の夜景ツアー、観光工場（ニューファクトリー）などが進められている。観光工場は全国で300以上あり、集客力がある。工場と観光が共存し、相乗効果がある。 都市づくりの課題、目標に防災関連が記載されているが、都市構造（P 4 2 のウ）の中に防災について一項目特記したらと思うが、いかがか。 また、P 4 3 の⑤に防災のことが記述されているが、防災に関して新たに⑥の項目を立てられないか。
(委員長)	資料3は非常に勉強になる。核心を突いた、的を得た意見が多い。市民意見の中にも「産業観光」的なものはあった。加筆したい。都市構造の中での防災については、P 3 8 のイ基本的考え方の2つめの段落に加えたい。
(小泉委員)	エネルギーの自立性についても書き加えておきたい。
(小泉委員)	P 4 2 の都市構造の中にも災害時にリスク分散の記述がある。これまでの議論では、経済的な横浜の中心部の相対的低下を食い止め、より高めようということで、中心部に集中を促すことを進めてきたが、今回の震災を踏まえると単純にそうとは言えなくなっている。絵柄を決めてしまっても良いのか、むしろ取り下げても良いのではないかと思っている。都市構造ではコンパクト性も大事、一方で多極分散型で安全な都市構造も必要。複数の可能性について、きちんと検討していくということを書いた方が良いのではないか。
(委員長)	45ページの図をやめるということか。
(小泉委員)	44ページの図はどうなのかということ。
(委員長)	ここまで取り下げるといっても、できる限り文言の追加も含めて詰めていきたい。
(小泉委員)	全く取り下げるのではなく、基本的な考え方として、駅に集約する

	<p>ことや都心強化の考え方は、一方で否定されているということを書きながらも、震災時等非常時に安全に機能するものなのかという検証を踏まえて都市構造を最終的に決めていくという書き方でも良いのではないかと。決定的には言い切れない。</p>
(中村委員)	<p>44ページの図。横浜の主要な駅の○の位置は動かないけれど、○がどういう意味を持つのか、相互の関係はどうなのかということが小泉委員の言っているところではないか。この図の説明の仕方が先々の議論で変わりうるということが伝わるような説明文が必要ではないか。</p>
	<p>P42の「複数の都心」という言葉はあまり適切ではないのではないかと。機能の代替性、補完性といった観点で「都心」のあり方については、まだまだ議論の余地があるということを示すことが必要ではないか。</p>
(三輪委員)	<p>防災の観点から、P37の地域の「防犯活動・・・」の中に防災的な自助力を高めることを推進するといったキーワードが入らないといけない。自分たちのまちを点検し、どう住むのかという観点を入れる必要がある。</p>
	<p>区レベルでどう考えるかという次のステップと連動する。P3で追記された「・・・都市の将来像・・・、市民とともに考えていく・・・」求められる役割の中に、防災的な観点で見直し、自分たちのまちを考えていくようなことができる、ボトムアップ的にできる仕組みが見えるようにするのが良いのではないかと。</p>
(委員長)	<p>P3は全体的なことを言っているので、P37の最後のところに対応する。</p> <p>都市構造図は、現行プランの都市構造があまりにも都心、環状となっているところを、より生活に密着したものに換えようということが基本にある。あまり、考え方がぶれない方が良い。言葉によって工夫するようにしたい。</p>
(小泉委員)	<p>中村委員の意見が良い。現存する集積地の○の色、大きさ、ネットワークをどうするかという問題。基本的なトーンは今のままで、ひとつひとつの拠点にどういう性能、役割を持たせるかはまだ検討の余地があるということを示しておく。</p>
(中村委員)	<p>言葉の整合性について。P30では「競争力強化」、P34では「対峙補完」「対峙共存」、P43では対峙が消えている。</p>
(委員長)	<p>「対峙」は排除的な感じ。頑張るんだが釜山はしのげないので、国際的な中で我が身をよりしっかりしていこうということが言いたかった。</p>
(中村委員)	<p>それならば、P34の対峙は落とすべきではないか。</p>
(委員長)	<p>落とさなくても良いかなと思った。よしやるぞと対峙しつつ、しかし握手するようなアンビバレント(=相反する意見を持つさま。両</p>

面の) な表現にしたかった。

(中村委員) 意図はわかったが、「対峙」はなくても良いと思う。良い意味での競争相手はあり得るし、競争の仕方はいろいろあり、P 4 3の「役割分担」が生きる。P 3 4の「対峙」は違う言葉でも良いのでは。

(真野委員) 「対峙」は対立ではない。対等な立場でという意味もあるので、あって良いのではないか。

(中村委員) 防災は、自然とどう立ち向かうかであり、水と環境も自然とどう生きるかであり、ある種の解もあるしある種のトレードオフもある。文言の中に入れてたい。P 3 7の下から4、3行目が浮いているように思える。ここをもう少し生かせないか。

(委員長) P 4 3の最後の行もそうだが、根本的にそのような思想を入れられれば良いが、今からではということもあり、書ける範囲で書いた。収まりが悪いのは自覚している。

(中村委員) もう2、3行書けないかと思う。再検討の中での視点の話と流域での共存の話、市民の意識を繋ぐ接着剤のようなもの。

(委員長) P 3 2の都市づくりの基本理念の3行目も変えたが、安全安心の視点が落ちていたから。今の3つの中でうまく生かせるような言葉があれば入れられるのではないか。

(中村委員) 資料3。P 3 3の2 2-1の意見に対し「市の担当部署に伝えます」になっているが、これは違っているのではないか。資料4のP 3 6のところ記述してあることを踏まえた回答があるのではないか。

(委員長) そこはそのようにする。

資料3 P 3の4 2-7のエキサイトよこはま2 2への意見の認識がどうなのかということと、回答がこれで良いのかどうか。

(中村委員) エキサイトよこはま2 2は高層ビルが乱立する計画になっているのか？

(事務局) 乱立は誤解。駅ビルと東急の建物が1 8 0メートルを超えているため、そのように思われたのであろうが、そうではない。

(委員長) 乱立することは良いことだというように読まれてしまう可能性があるので、そうではないというように修正する。

(中村委員) 都心のビルの集積のあり方、緑のバランスは重要。それに近いことは提言(案)に書いてあるので、回答の中に明記しておく。

(事務局) 川などを生かしながらまちをつくっていくことがコンセプトになっている。

(委員長) エキサイトよこはま2 2の中にもそういうポリシーが入っていることを言った方が良い。同じ意見がもう一カ所あると思うので、同じように修正する。

(吉田委員) 中村委員に質問。資料3のP 4 0の2 3-3の自転車のことが出てくるが、震災後ということもあり、自転車への関心が高まっており、全体的に自転車の記述が少ないと思うがいかがか。資料4のP 3 6

	<p>⑤あたりに入れるのかなと思う。</p> <p>資料4 P 3 6の⑥について。⑦を加筆しているのので、⑥は文章量的にバランスを欠いている。P 3 4に観光の話を入れたのは良いが、⑥にも多少観光の話が出てくる。⑥には、景観の話をもう少しきちんと書いた方が良い。産業の景観、田園景観も横浜の特長。もう少しまとめた書き方ができないか。</p>
(委員 長)	<p>市民の皆さんが言っているような方向で膨らませることができれば良いが。</p>
(中村委員)	<p>P 3 6には自転車のことは書いてない。書き方が難しい。自転車の走行空間があったほうが良いが、そのために何を減らすかが難しい。歩道、車道を減らすわけにはいかない。思想を書いて良いというのであれば、自転車の使いやすさについてはワンフレーズあると思う。一方で、震災に遭った後の道路空間を緊急的にどう運用するかという発想が必要で、そのことについてはここでは書けないと思う。</p> <p>まとめると、今後の道路空間のあり方の中で、自転車の使いやすさのワンフレーズを入れるところを探してもらって、書いておくの良いのかなと思う。</p>
(委員 長)	<p>下から2つめのパラグラフのところの「徒歩や公共交通の・・・」に自転車を入れるのは早すぎるか。</p>
(中村委員)	<p>大丈夫だと思う。一般に、ヨーロッパなどでは、グリーンモールなどでは「徒歩、自転車、公共交通」と言っている。</p>
(委員 長)	<p>震災が起こったばかりで、後回しにはできないので、前文のあたりで精一杯書いたが、その点も重々加味して考えてほしいといった点を加える。</p>
(中村委員)	<p>土地利用も含め、緊急避難的な空間の運用の議論が必要なので、もう少しまとめた書き方ができれば。</p>
(委員 長)	<p>「災害に強い」と言っているが、もう少し総合的な観点からも強いといった感じで書きましょうか。</p>
(小泉委員)	<p>エネルギーの見直しも入れなければいけない。低炭素だけでは足りない。そのニュアンスも前文で入れてほしい。都市政策を包括的に見直すということが必要。そのようなニュアンスが伝わるような、今後の課題を書いてほしい。</p> <p>エネルギーについては、P 3 0あたりに加筆することになるのかなと思う。</p>
(委員 長)	<p>行政の方で考えていることはないか。県は2 0 0万戸の住宅にソーラーパネルをつけると言っているようだが。それには横浜市も入っているのか。</p>
(事務局)	<p>カウントされていると思う。</p>
(小泉委員)	<p>再生エネルギー等を含めた多様なエネルギーの確保が大事。</p>

(委員長)	<p>前段があると書きやすいが、いざという時に困るということを前段で書いておくようにする。前段と政策への提言のところで少しずつ書くようにする。</p> <p>エネルギー関係の政策と都市マスとはどう関わるのか。</p>
(事務局)	<p>5月以降、現在の地球温暖化対策事業本部が補強され温暖化対策統括本部となり、そこが携わっていく。みなとみらい21地区や港北ニュータウンの住宅地と金沢地区の工業団地を中心としたエネルギー施策をやろうとしている。</p> <p>また、横浜市では横浜市地球温暖化対策実行計画の中で、市域から排出される温室効果ガスの総排出量を2050年度までに1990年度比80%、2020年度までに25%削減するという目標を掲げている。今後は、細かいディテールを詰めていくことになる。</p>
(村木委員)	<p>温暖化防止策について、どこまでディテールを書くかは難しい。全市の計画の中で書けるプロジェクトや書けそうなことだけを少し足すか、また、それを踏まえて今後都市計画でどうするかは、この後考えるということが良いのではないか。</p>
(事務局)	<p>P3に上位計画、関連計画が示されている。その中の、温暖化対策実行計画や、見直しが始まる防災計画でそういう面を入れて、それらと整合を図りながら進めるといったように書けば良いのではないか。</p>
(委員長)	<p>P3の地球温暖化対策実行計画は改定されたか。</p>
(事務局)	<p>P3の表にある環境管理計画は改定された。地球温暖化対策実行計画も改定された。環境管理計画は環境部門の総合的計画で上位概念になる。</p>
(吉田委員)	<p>P5の④。資料2のP3のQ4のウに賛同者が多い。そのことを加えた方が良いのではないか。</p>
(委員長)	<p>全体を見て入れられるようであれば入れる。</p> <p>P4の(1)の手前の一行の「基本に検討すべきである」は温い、「検討すべきである」にすべきという意見もあるがどうか。色々聞いてみると、区のほうでもプランが多すぎることや、財源の問題もあり、これくらいの表現かと思っている。</p>
(吉田委員)	<p>今回の地震のことから、安全安心のまちづくりの推進は市民と一緒にやっていくことは不可欠。その辺を入れておくべき。</p>
(委員長)	<p>最終的に入れていきたいと思う。</p>
(小泉委員)	<p>P30の②。地球温暖化対策は必要だが、低炭素イコール環境にやさしい訳ではない。「環境にやさしくかつ低炭素」でなくてはならない。</p>
(村木委員)	<p>P30の②。「ライフスタイル・まちづくり」とあるが、別のものではないか。こうくくって良いのか。ライフスタイルをとるか、市民のエネルギーの使い方への協力とかをここに書くのか。「転換を</p>

- 図る」とあるが、どういう形ですのか、良くわからないが。
- (小泉委員) 都市づくりとか都市計画的な手段と低炭素型や環境にやさしい地域づくりの中間領域の施策について、今後検討する必要があるということ。それを書いた方が良いでしょう。
- (委員長) 施策等最後の打ち出しはどうなっているか。P 33の②。加筆するならばこちらだと思う。細かくなりすぎるのではないか。少なくとも矛盾することは修正するとして、課題にすることも考える。
- (小泉委員) ここにあげたもの以外にも可能性としてあるということ。その可能性をにじませておくことはあるかもしれない。
- (委員長) 後で修正しておく。
- (事務局) 震災による課題等今日の指摘事項等については、提言の巻末に「終わりに」をもうけて包括的に記述すると良いのではないか。
- (委員長) 個別に書くのか集約して書くか。
- (事務局) 個別に直せるところは直す。包括するようなものは「終わりに」に入れて、部門別方針に記載するとかを書いていけば良いのではないか。
- (委員長) 案をつくって見ていただくようにする。

(3) その他

- (事務局) 今後のスケジュールの説明。
- 本日以降、いただいたご意見を踏まえた提言の修正案を事務局で作成し、それを委員の皆様を確認していただき、提言が確定となる。確定した提言については、4月の末までに委員会から本市に提出していただき、記者発表したい。
- 5月以降については、提言を踏まえて、部門別方針の検討と区プランの点検等を進めていく。これらの検討の中では、今後も委員の皆様にご意見ご指導をいただきたいと考えている。
- 24年度に全市プランの素案をまとめ、パブリックコメントや都市計画審議会の手続きを経て24年度末までに改定をしていきたい。区プランについても、24年度以降、各区の状況に応じて順次改定を行っていきたい。
- 本日が最後の委員会となるので、都市整備局長の櫻井からご挨拶申し上げます。
- (櫻井局長) あいさつ
- 昨年7月から5回にわたり熱心にご審議いただき、ありがとうございます。
- 本日のまとめの委員会でも白熱した議論になり、非常にありがたいと思う。
- また、この間、委員会独自に意見募集を行い、市民の皆さんのご意見を踏まえて提言をまとめていただいたということも、次のステッ

	<p>ブに進む上でも非常によかった。</p> <p>人口減少や少子高齢化ということは将来の問題だと捉えられがちだが、既に市内の一部でも始まっている。これらの課題を踏まえてまちづくりを行う必要がある。併せて温暖化の問題なども横浜のいま置かれている喫緊の課題であると認識している。交通問題も然り。そして、3月11日に起きた地震。災害に強いまちづくりができているのか、防災対策本部会議の中でも防災計画などの見直しが行われる。</p> <p>今回、このような提案をいただき、この「骨」に対して、今年度は「肉」をつけていく作業を行う。その際には、内部の様々な方向から検討を行うとともに、委員の皆様のご意見をうかがいながらプランの成案をつくってまいりたい。</p> <p>区プランについても、予算の問題もあるが、改定ができるような工夫を本局でも努力していくので、委員の皆様には、今後ご意見やご指導をいただきたい。</p> <p>1年間ありがとうございました。</p> <p>(事務局) 高見沢委員長からもごあいさつをお願いします。</p> <p>(委員長) あいさつ</p> <p>このように大きな災害が起こり、自分自身も考えさせられることが多かった。都市計画とは何なのか、根本的な課題を突きつけられた。その中で提言の策定作業を行うので、委員の皆さんのご意見を受けて最終案をまとめていきたい。</p> <p>そして、これからも、行政や市民の方とも力を合わせて都市の課題に携わっていきたい。</p> <p>皆さん、この一年間、ご苦労様でした。</p> <p>(事務局) ありがとうございました。</p> <p>改定検討委員会は以上で終了します。</p> <p>一年間、ありがとうございました。</p>
資 料	<p>資料1 意見募集の実施結果</p> <p>資料2 ヨコハマeアンケートの集計結果</p> <p>資料3 意見への対応(案)</p> <p>資料4 横浜市都市計画マスタープラン改定に向けた提言(案)</p>